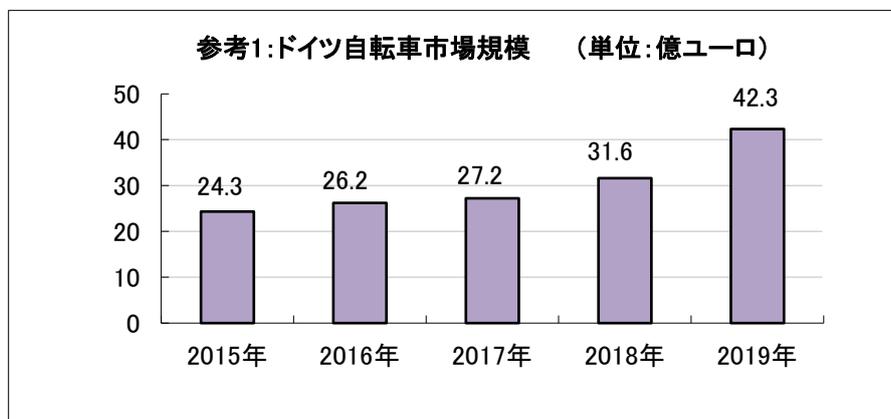
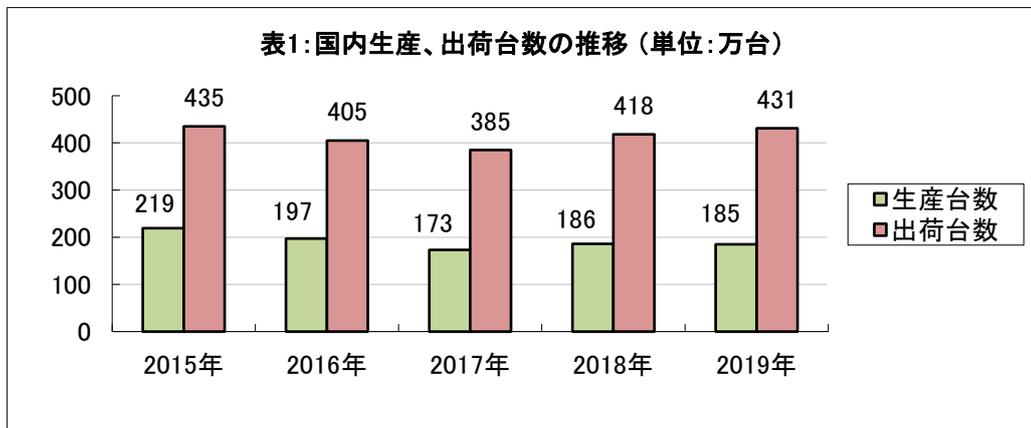


ドイツ自転車市況－2019

1. 国内生産及び出荷

ドイツ二輪産業協会(ZIV)によると、2019年自転車生産台数は前年比0.5%減の185万台とわずかに減少した。自転車出荷台数は同比3.1%増の431万台となった。また、自転車市場規模は同比33.9%増の42.3億ユーロ(5,076億円)と大幅に増加し、40億ユーロの大台を突破した。



2019年の全業態の平均販売価格は、前年比29.9%高の982ユーロ(117,840円)に上昇し1年間だけで226ユーロも上がった。2019年に自転車市場規模の拡大と平均販売価格の上昇が特に目立った理由は、単価の高い電動自転車の販売増加が続いているためとみられる。

表2:平均販売価格の推移(単位:ユーロ)

年	2015	2016	2017	2018	2019
平均販売価格(ユーロ)					

全業態平均販売価格	559	648	706	756	982
-----------	-----	-----	-----	-----	-----

2. 輸出入

2019年自転車輸出台数は前年比14.2%増の145万台に増加し、2ケタの増加率をみせた。輸入台数は前年比7.4%増の392万台となった。

輸出の大半は欧州向けである。輸出比率上位10カ国の顔ぶれでは、英国が姿を消しチェコ共和国が浮上した。最大の輸出先は依然としてオランダで市場シェアは前年より5ポイント増の32%となった。それに次ぐオーストリアは13%、次いでポーランドが3ポイント増の10%である。

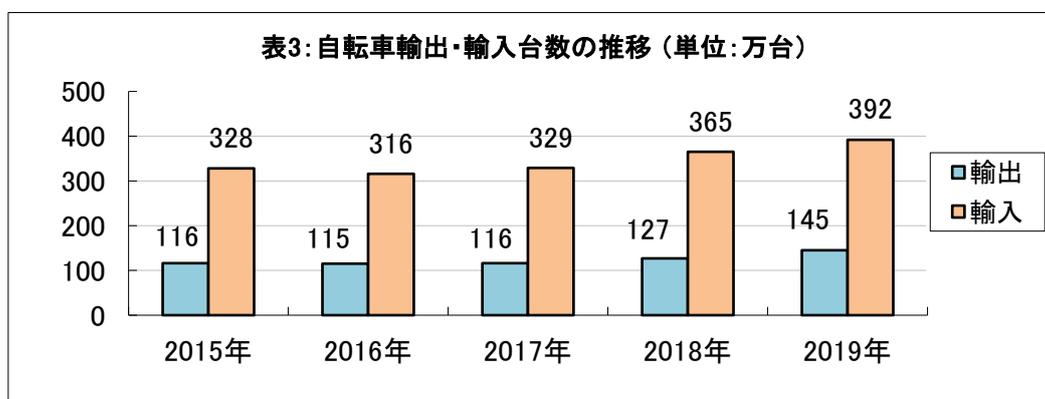


表4: 輸出比率上位10カ国の推移

国名	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
オランダ	21%	23%	28%	27%	32%
オーストリア	12%	11%	12%	12%	13%
ポーランド	7%	7%	5%	7%	10%
フランス	5%	8%	7%	7%	7%
スイス	4%	6%	6%	6%	6%
ベルギー	4%	3%	3%	4%	4%
イタリア	4%	4%	3%	3%	3%
チェコ共和国	※	※	※	※	3%
スペイン	4%	5%	5%	4%	2%
デンマーク	4%	5%	4%	3%	2%

その他	35%	28%	27%	27%	18%
-----	-----	-----	-----	-----	-----

※その他に含まれる

輸入比率上位 10 カ国は、順位の入替えはあったが昨年と同じ顔ぶれであった。最大の輸入先は依然としてカンボジアでは前年同様の 23% を占める。アジア地域では、バングラデシュが 2 ポイント増の 7%、フィリピンが 1 ポイント増の 4% となったが、中国、台湾は 1 ポイント減であった。欧州地域では、上位のポーランド、ブルガリアに次いで、近年、欧州の製造拠点の役割を担うポルトガルが 1 ポイント増の 7% となり確実に比率を増やした。

表5: 輸入比率上位 10 カ国の推移

国名	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
カンボジア	21%	23%	23%	23%	23%
ポーランド	11%	13%	13%	13%	11%
ブルガリア	9%	13%	11%	12%	11%
ポルトガル	※	※	4%	6%	7%
バングラデシュ	4%	4%	5%	5%	7%
オランダ	4%	5%	6%	6%	5%
中国	5%	3%	5%	5%	4%
フィリピン	※	※	3%	3%	4%
台湾	7%	8%	6%	4%	3%
オーストリア	4%	4%	4%	3%	3%
その他	35%	27%	20%	20%	22%

※その他に含まれる

3. 販売業態別シェア

2019 年の販売業態別シェアは、自転車小売専門店が前年より 1 ポイント増の 68% となった。デパート、スーパーマーケットやホームセンター等の量販全体のシェアは 2 ポイント減の 8% と、ここ数年減少が続いている。一方、通信販売・インターネットは、近年のインターネット販売の増加により、1 ポイント増の 24% と確実にシェアを伸ばしている。

自転車専門店が7割近いシェアを維持する主な理由は、ドイツの消費者は電動自転車等の付加価値の高い商品を購入する際は、専門知識を有する自転車小売専門店で適切なアドバイスを受け、試乗等により十分に吟味してから購入する傾向が強いためとみられる。

表6:販売業態別シェアの推移

販売形態	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
自転車小売専門店	69%	69%	68%	67%	68%
デパート・DIY店・小型スーパー	18%	16%	13%	10%	8%
通信販売・インターネット	13%	15%	19%	23%	24%

4. 車種別販売シェア

2019年の車種別販売シェアは、トレッキング車は26%、シティ車は14.5%となり、両車種は前年より3.5ポイント減と落ち込んだ。子供車、幼児車、レース用自転車等は前年同様あった。ATBは1ポイント増となったものの、MTBは1.5ポイント減の5%となり2015年から半減している。

一方、電動自転車は8ポイント増の31.5%と大幅にシェアを伸ばした。同車種のシェアは昨年2割を超え、中期的に30%、長期的に35%に達すると見込まれていた。しかし、翌年には早くも3割を超えた。独市場の電動自転車ブームは今後とも続くとZIVは述べているが、新型コロナウイルス感染拡大が今後どのような影響を及ぼすのか先行き不透明である。

表7:車種別販売シェアの推移

車種	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
トレッキング車	33.0%	32.0%	30.5%	29.5%	26.0%
シティ車	21.0%	20.0%	19.0%	18.0%	14.5%
ATB	7.5%	7.5%	7.5%	7.0%	8.0%
MTB	10.0%	9.0%	7.0%	6.5%	5.0%
子供車	4.5%	4.0%	4.0%	4.0%	4.0%
幼児車	3.0%	3.0%	3.0%	2.5%	2.5%
オランダ型及びツーリング車	3.0%	3.5%	3.5%	3.0%	2.5%

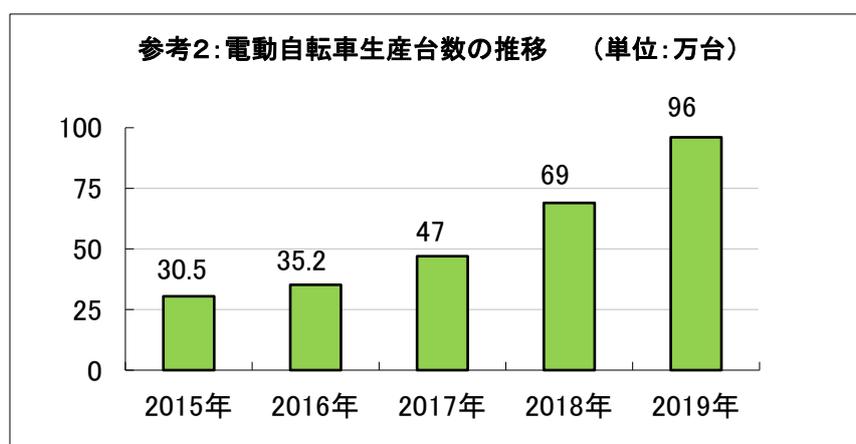
レース用自転車／フィットネスバイク	4.0%	4.0%	4.0%	3.5%	3.5%
電動自転車	12.5%	15.0%	19.0%	23.5%	31.5%
運搬車 ※	-	-	-	-	0.5%
その他	1.5%	2.0%	2.5%	2.5%	2.0%

※2019年より運搬車を追加

5. 電動自転車ブーム

2019年の電動自転車の販売台数は前年比38.8%増の136万台となり、前年に続き3割超の増加率をみせ、100万台の大台を突破した。また、同車種の生産台数も同比39.1%増の96万台と高い伸び率となった。

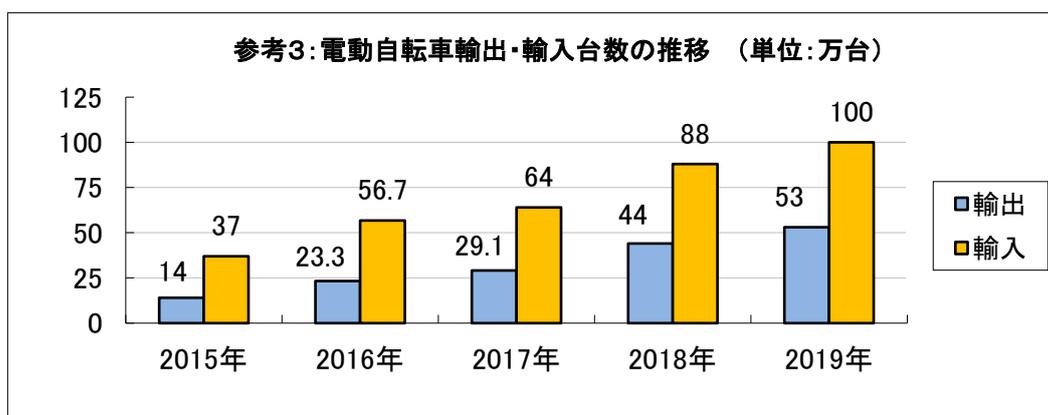
なお、ドイツ国内で販売される電動自転車の99.5%は電動アシスト自転車（EPAC）であり、スイスやオランダで人気の高まりつつあるSpeed Pedelecsは僅か0.5%とみられる。



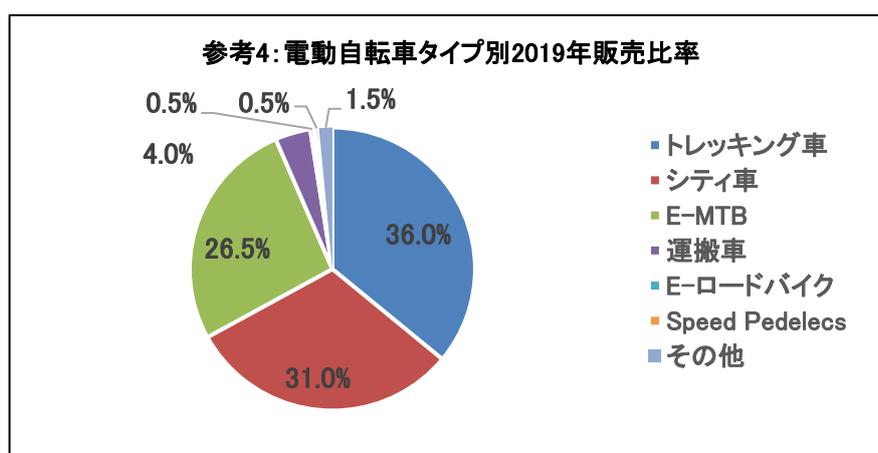
2019年の電動自転車の輸出台数は前年比20.5%増の53万台、輸入台数は同比

13.6%増の100万台と輸出入共に増加した。同車種の輸出先は殆どが欧州向けであり、オランダ向け輸出が前年より5ポイント増の39%と最大である。次いでオーストリア向けが13%、フランス12%、スイスとベルギーが6%等となっている。

輸入先は約6割がEU諸国から、3割強がアジア地域からである。ハンガリーからの輸入が26%と最大である。次いでベトナム14%、オランダ12%、台湾9%等となっている。因みに中国からの輸入は14ポイント減の2%と大幅に減少した。その要因は2019年1月より中国製電動自転車に賦課されているアンチダンピング(AD)税と補助金相殺税の影響が大きいと思われる。



2019年の電動自転車のタイプ別販売比率は、トレッキング車タイプが前年より0.5ポイント減の36%で最大である。シティ車タイプは2ポイント減の31%と減少傾向にあるが、街乗りが主体のレッキング/シティ両タイプで7割近くを占めている。現在人気上昇中の電動マウンテンバイク(E-MTB)は1.5ポイント増の26.5%と増加を続けている。



また2019年より電動のロードバイク(E-ロードバイク)が新たに販売比率の分類に加えられた。まだわずか0.5%であるが、高額な電動スポーツ車としてE-MTBと共に普及するのか今後の動向にも注目である。



E-ロードバイク（左：BULLS、右：ピアンキ）

オーストリアの2019年電動自転車販売台数は前年同様の15万台(出所;VSSÖ)、スイスは前年比19%増の13万台(出所;velosuisse)となり、両国の電動自転車販売台数は欧州諸国でも上位に位置している。近年、欧州最大の自転車企業アクセル・グループは、ドイツ(D)にオーストリア(A)とスイス(CH)両国を加えた3カ国をドイツ語商圏(DACH市場)として重要視している。欧州EPACブームの今後を見定める上で同商圏にも注視したい。

以 上

統計出所：ドイツ二輪産業協会（ZIV）

写真：EUROBIKE2019にて当協会撮影